



## 『 奈良の大仏を作る 』

世界最大の鑄造仏である奈良大仏は、743年発布の大仏建立の詔からもうかがわれるように、聖武天皇の強いご意志がつくらせたものです。大仏本体の鑄造は747年開始されて749年に完成しています。

「大仏殿碑文」は大仏建立に関係した工人として国中公麻呂（くになかのきよまる）、高市真国（たけちのまくに）、高市真麿（ままる）、柿本男玉（かきのもののおたま）、稻名部百世（いなべのももよ）、益田縄手（ますだのなわて）の6名をあげています。国中公麻呂は663年百濟からわたってきた国滑富（こくこつふ）の孫で、東大寺の前身である金光明寺の造物所造仏長官として大仏建立計画のはじめから鑄造技術の総指揮者として活躍した人です。

飛鳥大仏は仏教伝来とこれを信奉する推古天皇や蘇我氏が中国大陸の技術を導入してつくり、奈良大仏は仏教文化の円熟した天平時代に体制のととのった国家権力を駆使して聖武天皇がほしい意欲をそそいでつくられました。このように造仏は国家的事業として中国大陸の技術をとりにて完成させています。



作者	国中公麻呂
製作	743年製作決定 747年鑄造開始 752年開眼法要 757年完成
使用材料	銅 499T 錫 8.5T 金 0.44T 水銀 2.5T
鑄造工程	8回に分け鑄造
炉の構造	レンガ造り、 耐火粘土仕上げ
送風装置	足踏みふいご（タタラ）
メッキ処理	表面に金メッキ 金・水銀アマルガム

土でつくった塑像（そぞう）の外側に土の鑄型（いがた）（外型）をつくり、つぎに塑像を銅でつくる像の厚みだけけずって、先の外型とのすきまにとけた銅をながしこむのです。（削り中子法と言います）。大きな像なので8回にわけて下から順に鑄こんでいきました。

図の左は6段目の鑄こみのところです。土手の上にたくさんの溶解炉「こしき」をならべ、踏ふいご「たたら」をふんで銅をとかし、一せいに鑄型へながしこみます。

真赤な銅がながれこむときの熱気とこれを見まもる人びとの緊張した気持、まさに戦場のような感じです。

### むらの鍛冶屋<sup>®</sup>

参考資料

鑄物の文化史 石野 亨 小峰書店 1986年

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>

<http://www.kanamonoya.co.jp/>

[ryou@memenet.or.jp](mailto:ryou@memenet.or.jp)



何でもお気軽にお尋ねください！！